

「IBD 白書 2022」をリリース、IBD 患者 514 人が回答

健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業を行う株式会社QLife（キューライフ／本社：東京都港区、代表取締役：有瀬和徳）は、IBD（炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎、クローン病など）患者の治療、食事、就労、日常生活などについてまとめた「IBD 白書 2022」を発表した。調査結果については「IBD プラス」（<https://ibd.qlife.jp/>）に掲載される予定。調査結果の概要は以下の通り。

【調査結果の概要】

○調査概要

実施責任者：株式会社QLife

目的：IBD 患者の治療や生活についての実態把握

調査実施日：2022年12月2日～12月28日

調査方法：Web アンケート調査

有効回答数：514

疾患名：潰瘍性大腸炎 310 人、クローン病 203 人、その他 1 人

○結果概要

IBD 患者の治療や生活に関するアンケート調査を行い、「IBD 白書 2022」を作成した。前回 2020 年に実施した際の調査対象者は 416 人、今回は 514 人で、約 100 人多くの方にご協力をいただいた。IBD 白書 2022 は、内容別に「患者背景」「治療」「生活」「食事」「情報の入手」「IBD に関するコミュニケーション」、そして今なお続く「新型コロナ」、注目の「オンライン診療」と、計 8 項目で構成されている。回答者の「患者背景」については、30～50 代が多く、前回に比べ 10 代と 50 代以上が多かった。「治療」については、生物学的製剤の順位が上がっていた。「生活」については、前回と同様、周囲に病気であることを明かしている患者が多かった。「食事」については、脂質を気にする人はクローン病で 8 割を超え、食物繊維（残渣）を気にする人は全体的に前回より多い傾向だった。「情報の入手」では、医師・看護師・薬剤師など医療スタッフの情報を参考にしている人が最も多かった。「IBD に関するコミュニケーション」では、クローン病でオンラインでの交流を望む傾向が強かった。「新型コロナ」については、特に IBD に影響はなかったと答えた人が多かった。「オンライン診療」については、前回と同様、4 割程度の方がオンライン診療を選びたいと答えた。今回の調査により、使用している治療薬の回答結果として、生物学的製剤の普及がうかがえた。今回もコロナ禍での調査となったが、IBD の病態や治療に影響があったと答えた人は少なかった。また、多くの人が医療従事者から情報を入手しており、正しい情報を得ようとしている実態が明らかとなった。

○結果抜粋

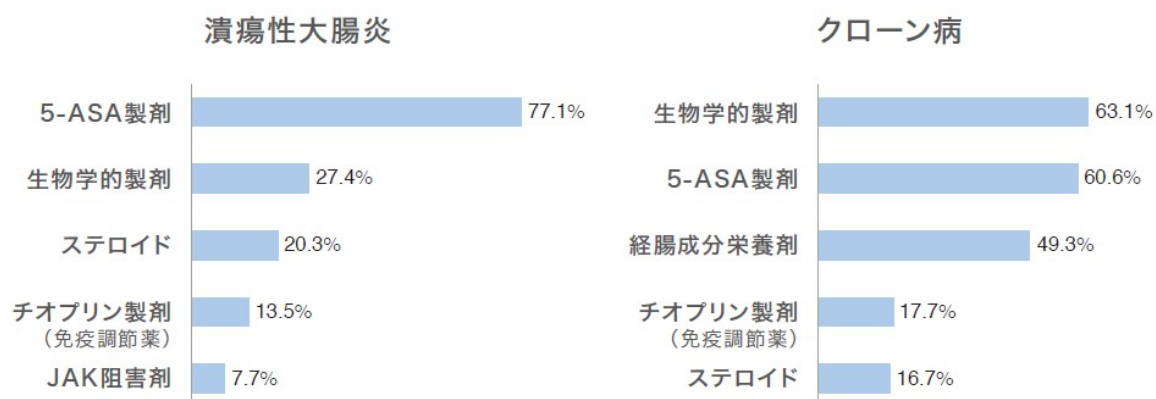
【治療】

生物学的製剤の普及がうかがえる結果に

- 現在受けている、潰瘍性大腸炎やクローン病の治療を教えてください(複数回答)

最も多く使われているのは、潰瘍性大腸炎では「5-ASA製剤」77.1%、クローン病では「生物学的製剤」63.1%だった。2番目に多く使われているのは、潰瘍性大腸炎では「生物学的製剤」27.4%、クローン病では「5-ASA製剤」60.6%だった。3番目に多く使われているのは、潰瘍性大腸炎では「ステロイド」20.3%、クローン病では「経腸成分栄養剤」49.3%だった。

生物学的製剤は今回、潰瘍性大腸炎で2位、クローン病で1位だったが、潰瘍性大腸炎で3位(23.0%)、クローン病で2位(56.8%)だった前回と比べ、順位が上がっていた。特にクローン病で生物学的製剤を使っていると答えた割合が多かった。

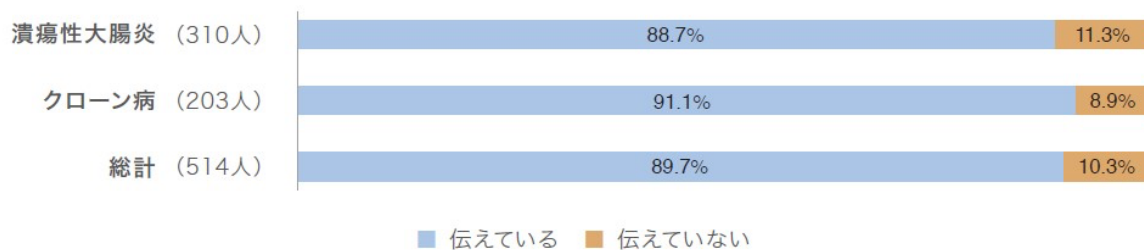


【生活】

全体の約9割が、自分の病気のことを周囲に伝えていると答えた

● 病気のことを、学校や職場に伝えていますか

全体で「伝えている」と回答したのは89.7%で、社会的な関わりを持つ人たちに病気を伝えている人が9割近くいることがわかった。

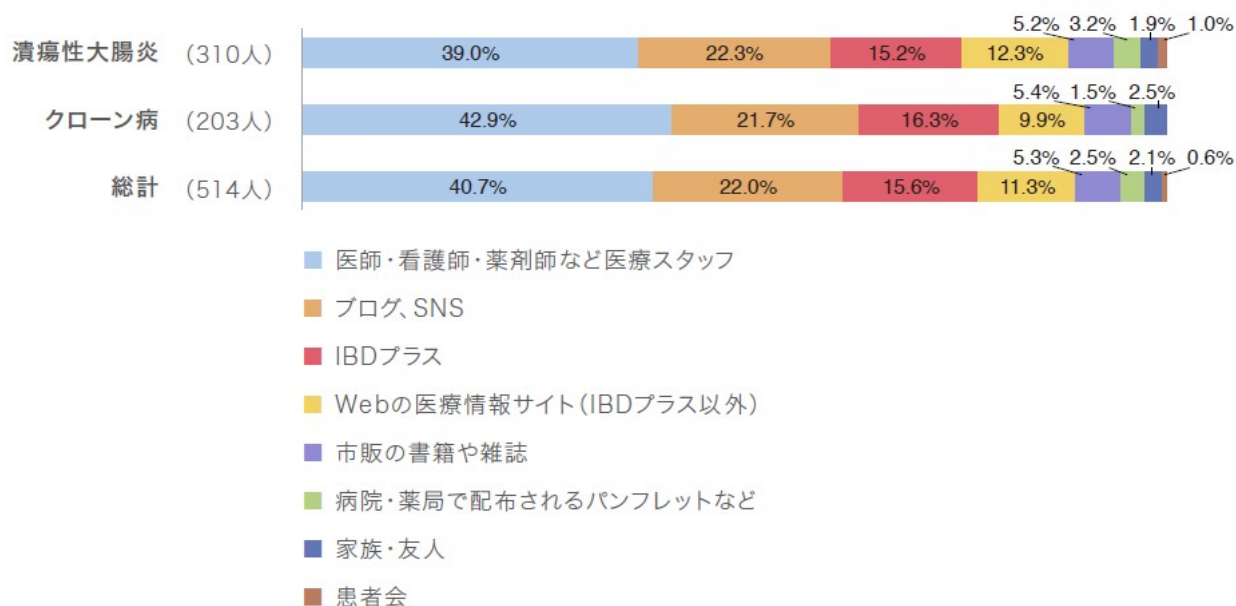


【情報の入手】

全体の約4割が、医療スタッフから情報入手していると答えた

- 潰瘍性大腸炎・クローン病に関して最も参考にしている情報はどこから入手していますか

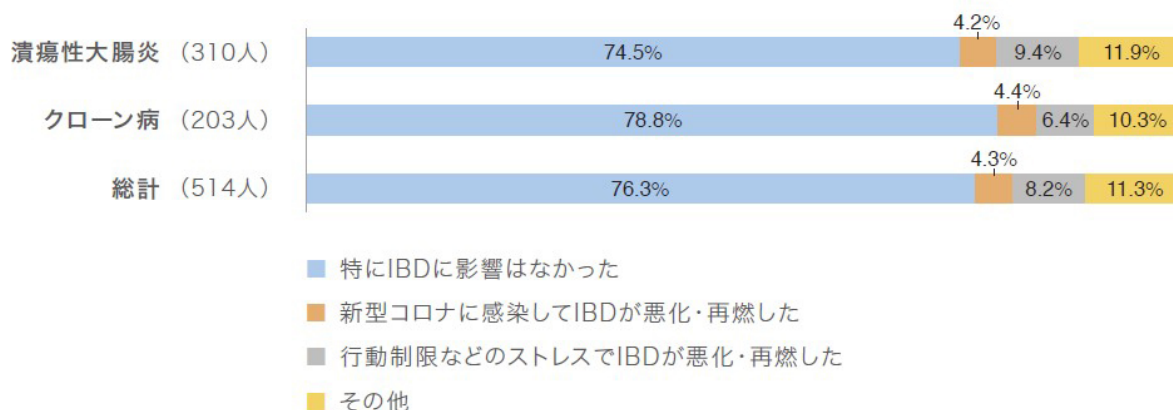
病気に関する情報として最も参考にされているのは、全体で「医師・看護師・薬剤師など医療スタッフ」(40.7%)が最も多く、次いで「ブログ、SNS」(22.0%)、「IBDプラス」(15.6%)という結果だった。



全体の7割以上が、新型コロナはIBDに影響がなかったと答えた

● 新型コロナ流行で、IBDにどのような影響がありましたか

全体の7割以上が新型コロナの流行は「特にIBDに影響はなかった」と回答した。「新型コロナに感染してIBDが悪化・再燃した」は4.3%、「行動制限などのストレスでIBDが悪化・再燃した」は8.2%だった。その他、以下のような回答があった。「コロナの影響で入院が延期になった」「コロナの影響かわからないが感染後に発症・再燃した」「ワクチンの影響かはわからないが、接種後に再燃・悪化した」「外出が減る、在宅勤務などで体調が良くなった」「コンビニ等でトイレを借りられなくなった」「飲み会が減って気が楽になった」。



【会社概要】

会社名：株式会社 QLife (キューライフ)

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-21 虎ノ門33森ビル10階

代表者：代表取締役 有瀬和徳 設立日：2006年(平成18年)11月17日

事業内容：健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業 URL：<http://www qlife.co.jp>

お問い合わせ先：株式会社 QLife IBD プラス事務局 E-mail：ibd_info@qlife.co.jp